

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

喘息予防・管理ガイドライン 2021

一般社団法人日本アレルギー学会 アレルギー学会喘息ガイドライン専門部会、「喘息予防・管理ガイドライン 2021」作成委員

協和企画、2021年10月8日 第1版第1刷発行

Strength of Evidence

- A: 無作為化比較試験 (RCTs), 大規模データ
- B: 無作為化比較試験 (RCTs), (比較的) 小規模データ
- C: 無作為化試験, 観察的研究
- D: パネルコンセンサスの総意

■1 漢方薬、柴朴湯、麦門冬湯

疾患:

成人喘息 (長期管理薬)

有効性に関する記載ないしその要約:

薬剤の 11) その他の薬剤、療法の方に、下記の記載がある。

『漢方薬の投与は証を基にした患者の体質・体力と、その時点での闘病反応の強弱によって方剤を選ぶという隋証が重要である。柴朴湯や麦門冬湯など多くの有効症例の報告はあるが、適切な偽薬が得難く、喘息治療における有効性を実証できるプラセボ対照試験ができていないのが現状である。』

■2 漢方薬 (地竜、葛根湯など)

疾患:

AERD (NSAIDs 過敏喘息、N-ERD、アスピリン喘息)

CPG 中の Strength of Evidence:

D: パネルコンセンサスの総意

有効性に関する記載ないしその要約:

AERD (NSAIDs 過敏喘息、N-ERD、アスピリン喘息) の発熱疼痛時の対応の項に、下記の記載がある。

『漢方薬の葛根湯や地竜などは安全である (エビデンス D) 』

AERD (NSAIDs 過敏喘息、N-ERD、アスピリン喘息) に対する使用可能な薬剤の表中の安全の項に、『喘息の悪化は認めない (COX-1 阻害作用なし): 漢方薬 (地竜、葛根湯など) 』と記載がある。

<以上 1~2 の記載として>

備考:

巻末に五虎湯、柴朴湯、小青竜湯、麦門冬湯、麻黄湯、麻杏甘石湯の一般名・商品名等、剤形・組成・用量 (1 日用量) 、備考の一覧表が掲載されている。